

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本



8月10日・17日合併号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

被爆した哲学者・森滝市郎さんの反核への執念

17日(日)＝1、3面

迫る



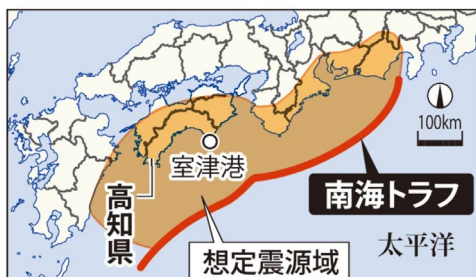
森滝市郎さんのノート。爆風で飛び散ったインクの跡が残る

哲学者・森滝市郎さん（1901～94年）は1945年8月、広島市内で被爆し、右目を失明するなど負傷をします。戦時中に教育者として戦争に加担した自身の過去を悔い、戦後は反核運動に心血を注ぎます。森滝さんは94年に亡くなりますが、今回の執筆者、高尾具成記者は生前の森滝さんに取材していました。

高尾記者は最近になって、原

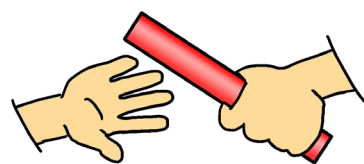
爆投下直後の状況を克明につづった手記と出合います。森滝さんが語った内容を教え子たちが書いた口述筆記で、そのタイトルは「さいやく記」。「さいやく」とは恐らく「災厄」と思われます。そこでは一切の核を拒否する「核絶対否定」の考えが貫かれていました。「さいやく記」の内容をひもときながら、戦後80年の戦争と平和を考えます。

南海トラフ巨大地震、どう備える 10日(日)＝総合面



南海トラフ巨大地震＝地図＝が起

きる可能性は30年以内に80%程度とされています。もし発生したら、最悪の場合には29万8000人が犠牲になると想定されています。そうした被害を減らすために、国はどんな取り組みを進めているのでしょうか。国難とも言える大災害にどう備えれば良いのか、難しいニュースを分かりやすく伝えるコーナーでまとめました。



論点 戦時の記憶どうつなぐか

13日(水)＝オピニオン面

先の大戦の犠牲者に思いをはせ、平和の大切さをかみしめる8月を迎えています。戦中の体験を社会全体で共有することは、歴史に学び、平和な世界を築く基礎をなすものです。

戦後80年を迎え、当時を語ることでできる体験者はごく限られてきています。戦争や戦時体験をテーマに取り組んできたスペシャリストに継承の意義と課題を聞きました。

特集 ワイド 「戦後80年 わが人生」中井政嗣さん

12日(火)＝タ刊2面

日本が敗戦を迎えた1945年生まれの人たちは、戦後日本の映し鏡といっいいでしょう。この企画は炎暑の2025年夏、かつて焼け野原から立ち上がり、ゆらぎ、まどいながら時を重ねてきた先達を訪ねる口

ングインタビューです。この日登場するのは、お好み焼きチェーン「千房」創業者の中井政嗣さん＝写真。がむしゃらに駆け抜けた来し方を振り返り、現代ニッポンに思うことを語ります。



竹橋の窓辺から

編集後記



日本の女性の睡眠時間は世界でも特に短く、寝不足に悩んでいる人は多い。睡眠の改善には、睡眠の質を上げるだけでなく、睡眠の量を確保することも重要。睡眠の質を上げるには、睡眠の環境を整えることが大切。睡眠の量を確保するには、睡眠の習慣を身につけることが大切。睡眠の質を上げるには、睡眠の環境を整えることが大切。睡眠の量を確保するには、睡眠の習慣を身につけることが大切。



毎日新聞

(小野田香織)